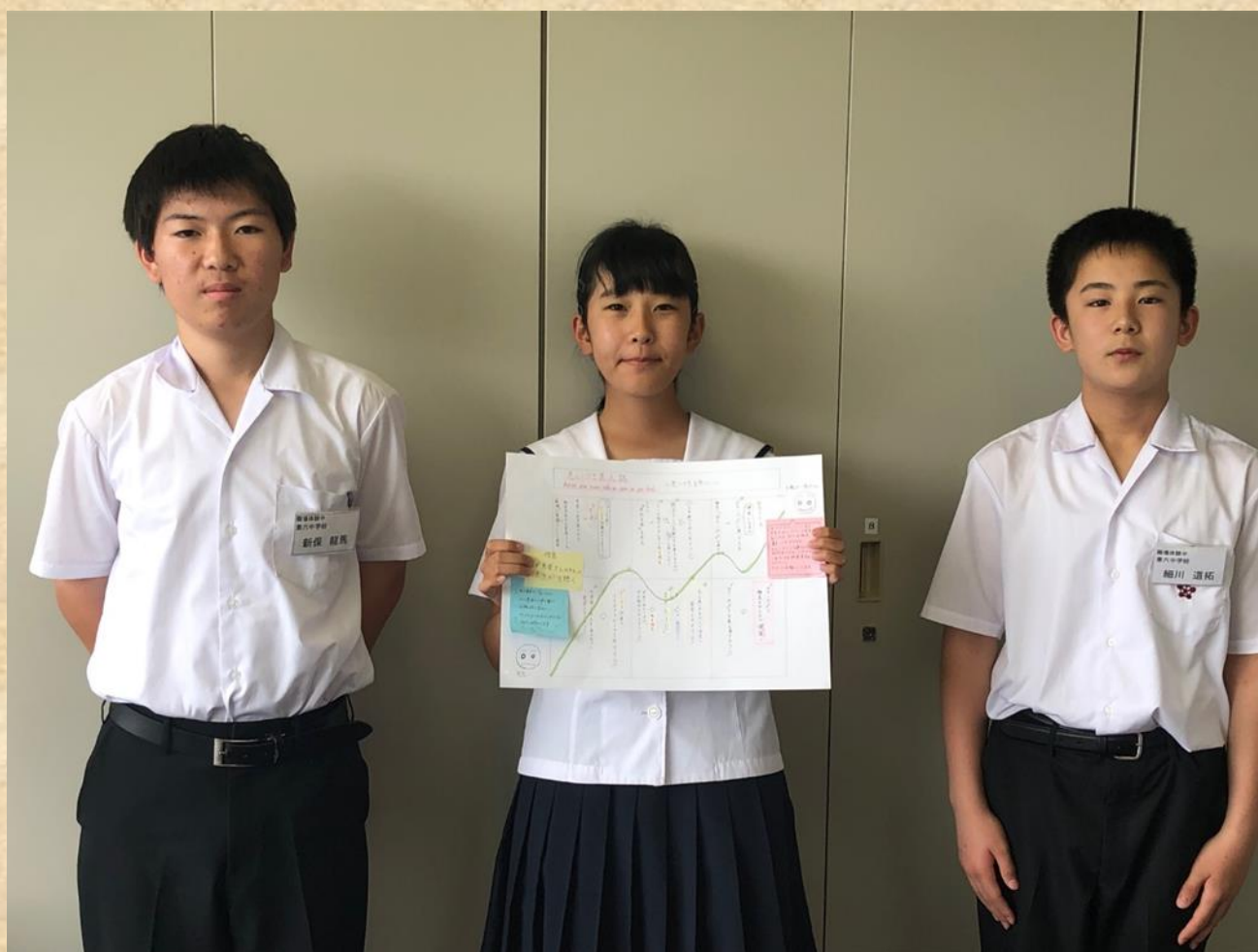


【職場体験】 研究者インタビューを実施しました

金沢市立兼六中学校の職場体験で来学した生徒3名と、研究支援課の仕事として、2019年6月21日（金）に研究者インタビューを行いました。

研究成果を社会へ発信するために、何ができるかを考え、到達目標を『研究者へのインタビューを実施して、その成果を北陸大学ホームページで社会へ発信すること』としました。

今回の研究者インタビューでは、今年度「ひらめき☆ときめきサイエンス」に採択されている医療保健学部の高橋純子先生にご協力いただきました。



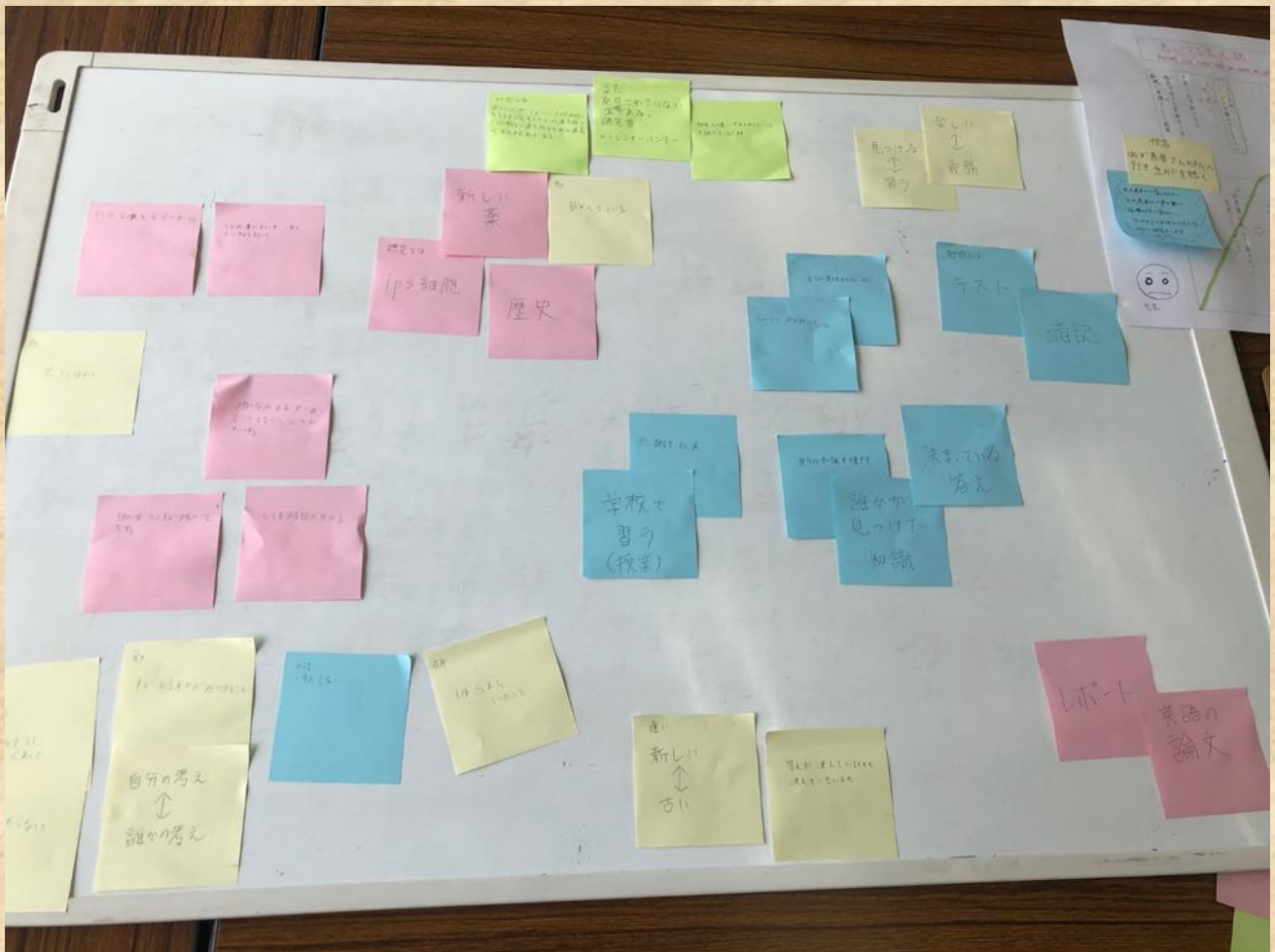
以下、詳しくご紹介していきます。

（記事および写真の掲載については許可をいただいております。）

「研究とは、まだ発見されていない宝を見つける、宝探しである。」

「研究とは何か？」

研究支援課の仕事に取り組むにあたり、まず“研究”について考えました。「研究と聞いてぱっと思いつくイメージは？」から、「研究と勉強の違いは？」と、視点を変えながら深めていき、さまざまな意見を組み合わせて、自分たちなりの定義づけ（「研究とは…である」）を行いました。上記のタイトルは、彼らが彼らなりに考えた研究の定義です。



社会に向けて発信する

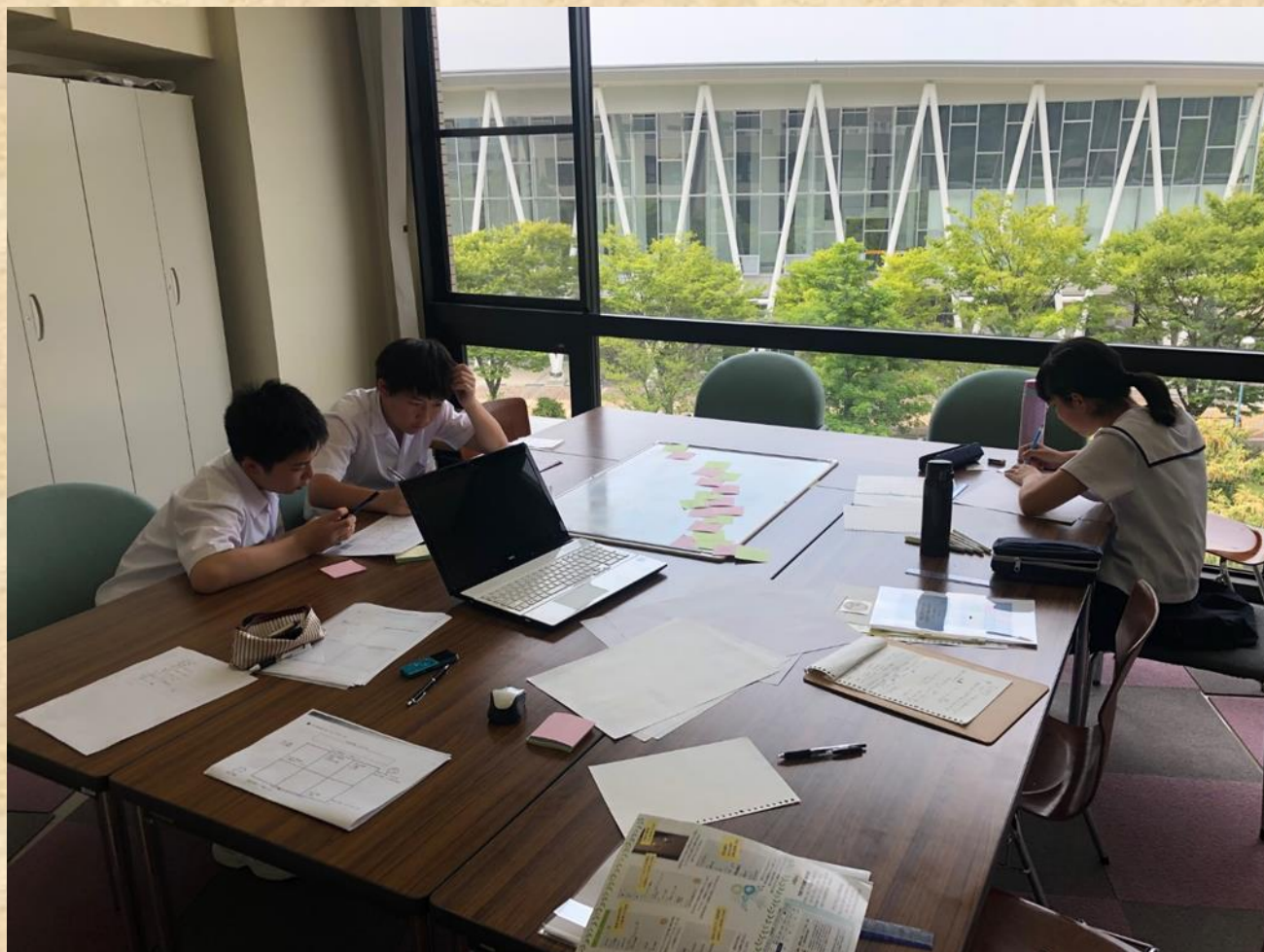
「なぜ社会に向けて発信する必要があるのか？」

“社会へ発信すること”について考えました。彼らが身近に感じていた「YouTuber たちはなぜ発信をしているのか？」という疑問をきっかけに、「自分を知ってもらうため」「仲間をつくるため」「伝えたいことを伝えるため」と、社会へ発信する意味を探りました。

研究者インタビューの準備

「なぜ研究者にインタビューをするのか？」

今回実施する“研究者インタビュー”について考えました。『一人ひとりの研究者の【研究ストーリー】をカタチにして発信したい』という研究支援課としての想いと、『【研究ストーリー】として伝えることで、研究を通じてどう社会に貢献したいかという研究者の想いをわかりやすく発信することができる』というねらいを伝えた上で、研究者インタビューの準備を始めました。



「どのように【研究ストーリー】を組み立てていくか？」

わかりやすく伝えるために“ストーリーの組み立て方”について考えました。「どんなアニメ（ストーリー）は面白くないか？」という疑問をきっかけに、ストーリーを組み立てるためには、「【はじめ（過去）・なか（現在）・終わり（未来）の三幕構成】と【山あり谷ありの面白さ】が必要である」という自分たちなりの答えを見つけました。それをもとに、実際に【研究ストーリー】を組み立てるべく、それぞれで先生に聞きたいことを出し合い、そこから優先的に聞くべきことをまとめ、インタビュー本番の流れをつくりました。

研究者インタビュー（協力：医療保健学部・高橋純子准教授）

いよいよインタビュー本番です。自分たちで考えた質問を通じて、高橋先生の【研究ストーリー】を探っていきました。



=====

<インタビュー内容>

1. なぜ研究者になろうと思ったのですか？
2. 今どのような研究をしていますか？
3. 研究をしていて楽しかったことや嬉しかったことはありますか？
4. 研究をしていて困ったことや失敗したことはありますか？
5. 先生の研究の信念は何ですか？
6. これからどのような研究をしていきたいですか？
7. 先生にとって研究とは？

=====

緊張しながらも、真剣に話を聞く姿が、とても印象的で、そんな姿にきっと先生も「もっと話したいな」と思ってくれたはずです。



【研究ストーリー】の発信へ向けて

自分たちで行ったインタビューの成果を社会へわかりやすく発信すべく、今回は「フューチャーマッピング」というカタチで【研究ストーリー】をまとめました。

=====

- 研究を通じて誰かひとりをハッピーにする未来を想像する
- 研究ストーリーの源泉（先生の信念）を探る
- 研究ストーリーを山あり谷ありの曲線で描く
- 研究ストーリーの三幕構成を組み立ててエピソードをつなげる
- 研究ストーリーのタイトルを決める

== == == == == == == == == == ==

高橋先生がインタビューで「思いついたらすぐ行動する」「ひらめきをカタチにする」とお話しされていたことが彼らの印象に残っていたようで、特に「思い付き芸人」という先生の言葉を何とかタイトルにしたいということで話し合いを重ね、やっとタイトルが決まりました。



完成した【研究ストーリー】を見て、満足げに笑っている彼らの表情はどこか誇らしげでした。そんな彼らを見ていると、研究というのも同じで、研究のなかに込められた研究者の想いや成果を生み出す過程すべてが一つひとつの研究を形づくっているのだな、と改めて研究支援について考えるきっかけとなりました。



～振り返り～

最後に、今回の仕事について振り返りを行い、皆でシェアしました。完成した【研究ストーリー】はもちろん素晴らしかったのですが、それ以上に彼らが目標を達成しようとする過程そのものに大きな価値があったのだと、振り返りを通して改めて気づくことができました。

以下、シェアした内容になります。

＜今日一番おもしろかったところは？＞

- ・実際にインタビューできたこと
- ・みんなでインタビュー内容をまとめたこと

＜今日一番興味があったところは？＞

- ・自分の言葉でまとめたこと
- ・インタビューで聞いたお話
- ・WA-MO（WA-MO（電動カート）を使った高齢化地区の移動手段の拡大と健康調査）
- ・人工透析器

＜今日の体験で得た気づきは？＞

- ・まとめるときは大事なことを目立たせること
- ・みんなで協力して仕事をするのはとても楽しいこと
- ・病気でいつも通りの生活を送れない人たちがまた生活できるようにしてあげる仕事があるということ

＜今日の体験で今後使えそうだったところは？＞

- ・インタビューのしかた
- ・まとめて発表するときには図があるとイメージしやすいこと
- ・話を聞いて気になったところをさらに質問して深めること
- ・協力してひとつの目標を達成すること

＜今日の自分の一番の成果は？＞

- ・将来はインタビューをして発信するのも面白そうだと思えたこと
- ・しっかりとインタビューで話が聞けたこと

＜今日の感想＞

- ・大学の研究は実験室にこもることだけではないことがわかった。直接には患者さんを治さなくても、研究をすることが心の支えになるのはうれしいこと。
- ・一日仕事を体験して、仕事に対するイメージが変わりました。最初は、働いたら疲れるだけだろうと思っていたが、仕事はとても楽しかったし、終わった後も達成感を得られたので良かった。
- ・研究にはいろいろな種類や目的があり、それをするにはとてもお金がかかり、時間もかかるが、それを支援する人たちがいて研究者の負担を少なくしていることがわかった。疲れるだけでなく、楽しいこともいっぱいある。

～研究者あとかき～

とても熱心にインタビューされていました。単に用意した項目だけを聞くのではなく、聞いたことからたくさんの不明点や疑問などを自然に聞いて確認しようとしていたことが伝わってきました。また、医療を必要とする人についても良く考えることができました。研究やそれを支える人や環境についても理解することができました。見知らぬ人と話をするというドキドキもありましたが、わからないことを解決する楽しさに触れながら、和やかに有意義な時間をお互いに過ごすことができました。私自身も、インタビューを通じて、普段考えないようなことを考えることができたことで、改めて研究について問い直す良いきっかけとなりました。

彼らには、この体験を機会に、日本の社会や世界のことなどたくさんのことに興味を持って成長してほしいと思います。

(医療保健学部・高橋純子)

～編集者あとかき～

「取り組みたいけど普段はなかなかできないような仕事を一緒にやりたいな」という思いから中学生たちの力を借りて、“研究者インタビュー”に臨みました。働く楽しさを伝えたいと意気込んでいたつもりが、「これは絶対聞きたい!」「こっちの方がよくない? どう思う?」「これやるしこっちお願いしていい?」と積極的に、かつ、協創しながら取り組む彼らの姿を見て、むしろこちらが働く楽しさというものを教わった気がします。

疑問に思ったことを「なんで?」と素直に問える“子ども心”こそ、研究の真髄なのではないか。そんな教訓を得られた何とも有難い一日となりました。

今回の仕事では、『研究者へのインタビューを実施して、その成果を北陸大学ホームページで社会へ発信すること』を目標にしており、彼らが創る【研究ストーリー】を本学のホームページで発信することができれば面白いだろうな、と考えていました。

ただ、実際に、【研究ストーリー】を完成させようと仕事に励む彼らの姿を、その過程とともにお伝えすることで、完成した【研究ストーリー】ももっと素晴らしいものになるだろうなと思い、当初の計画を変更してこのようなカタチでお届けしました。彼らの、一生懸命に働く姿が伝われば幸いです。

(研究支援課)